

筑波山 参考資料 a1

筑波山や筑波山地域を案内している好資料として、ここでは次の5つを紹介しておきます。ネット上で閲覧させてもらえますので、検索してみてください(2024年4月記、8月追記)。

- (1)「筑波山ガイドマップ」登山コースの地図や自然案内、ルート別コースマップ、動植物の写真一覧などが、茨城県(生活環境部)のホームページでいろいろ提供されています。
- (2)「筑波山の春の自然」「～夏の自然」「～秋の自然」つくば環境フォーラム発行のカラフルなパンフレットが、季節ごとにpdfの形で閲覧できます。動植物のきれいな写真がたくさん掲載されています。
- (3)「市民団体が作った 筑波山地域ジオパークのガイドブック(2022年)」ジオパークの一つに指定された筑波山地域ですが、それを盛り立てようと活動されている「ジオネットワークつくばジオマイスター会」の皆さんが取りまとめた81頁に及ぶ資料集です。筑波山地域の自然だけでなく、信仰の歴史や地域の文化についての案内も含まれます。
- (4)「つくば新聞 筑波山の概要」、「つくば新聞 筑波山の登山コース」つくば新聞というタイトルで地域の情報をネット発信しているサイト。筑波山の名所や観光施設、各登山コースのようすなどが網羅的に紹介されています。

筑波山 参考資料 a2

(5)「筑波山はなぜ目立つ(1～14、2022年)」、「裾野も楽しい筑波山(0～26、2023年)」筑波山に詳しいホームページ作成者から、その博識の一端を分かりやすい写真と共にいろいろ教えてもらえます。「筑波山はなぜ目立つ」編では、「(山の中腹から上をおおう)斑れい岩が風化しにくかったから筑波山が(この地域としては)目立つ山になった」という趣旨の説明に苦言を投げかけています。筑波山の山頂部に斑れい岩が残っていることは、それが周りの花こう岩質の岩や変成岩類よりも風化や浸食に耐えたことを事実として物語っていますが、もしも斑れい岩はいつでも風化しにくいと決め込むとしたら、短絡的かもしれません。花こう岩も、風化が進んだ所がある一方、硬い岩山になっている所もあります。ホームページ作成者は、割れ目(節理)の多い少ないが風化の早さに関係する可能性を指摘していますが、風化が進む速さについて、専門的な説明が更に進んでほしいものです。

筑波山 参考資料 b

筑波山の地質について、詳しい専門的な知識を確認するためには、次のいくつかの文献が役に立つと思われます。いずれも、ネット上で閲覧させてもらえます(2024年4月記)。

(1) 「筑波山斑れい岩と周辺の花崗岩類との関係についての新知見－霞ヶ浦用水筑波1号トンネルの地質から」、笹田政克ほか、地質調査所月報、38巻第4号、217－220頁(1987年)。水路トンネルの壁に現れた斑れい岩と花こう岩質の岩の境界部分を観察し、岩の新旧の関係を明らかにしました。

(2) 「真壁地域の地質」、宮崎一博・笹田政克・吉岡敏和著、地域地質研究報告・5万分の1地質図幅(説明書)、地質調査所、1－103頁＋図版7頁(1996年)。筑波山を含むこの地域全体の地質について、出版時点までの知識を集大成した詳しい報告です。

(3) 「筑波山の地質－ハンレイ岩類と花崗岩類」、阿武隈山地岩石鉱物調査会・筑波山班(田切美智雄)著、「茨城県自然博物館総合調査報告書・八溝山地における中生代付加体および筑波山ハンレイ岩体の地質」、ミュージアムパーク茨城県自然博物館編、23－55頁(2013年)。山中にも分け入って筑波山の斑れい岩の広がりを追跡し、地質図の修正を提案しています。

(4) 「**Zircon U-Pb dating of plutonic rocks at the Tsukuba area, central Japan**」、Koike, Wataru and Tsutsumi, Yukiyasu, Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. C(国立科学博物館紀要C)、44号、1－11頁(2018年)。岩石の中のジルコンという鉱物に含まれるウラン238や鉛206を精密に量って筑波山の岩の年代を推定し、それまでの見方を変える新たな結果を得ました。